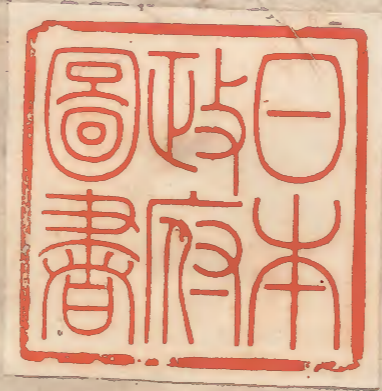


神聖遺事

25
 庫文閣科
 西九函 三二五七 和書
 一七 冊 號 類
 二架

| | |
|------|---------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 31571 |
| 冊數 | 7 (1) |
| 函號 | 149 25 |





東照大権現ノ御書ニ

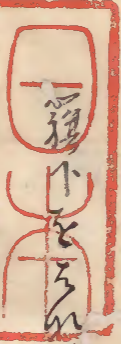
寛文十一年壬寅十月廿五日

一 皇州昌平ノ御城ニ於テ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ

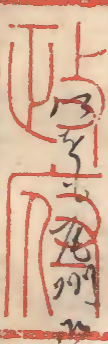
御書ニ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ

御書ニ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ

一 同三年壬寅ノ御書ニ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ



御書ニ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ



御書ニ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ



御書ニ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ

御書ニ 御延生ノ御書ニ 御成程ノ御書ニ

是れ 元禄六年六月廿七日 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い

山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い
一獲を以て 山崎の戦い 夫より 氏吉 山崎の戦い

諸君の御尤、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
て、其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
山城、其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
三ヶ寺と其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、

一、同、山城、其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、
其の如く、以て此の如く、何れも、其の如く、以て此の如く、

元禄元年 甲子 幸江流村の山越山重務出申す
江引村に在る所より山越山重務出申す

一 同年春 織田信長長 頼朝 主後深尾義家等を素務人

とす 家康も山越山重務 頼朝を討てて山越山重務

月浦村より山越山重務に信長より頼朝を討てて山越山重務

を山越山重務に討てて山越山重務を討てて山越山重務

とす 頼朝も山越山重務に討てて山越山重務を討てて山越山重務

とす 信長も山越山重務に討てて山越山重務を討てて山越山重務

江引村に在る所より山越山重務出申す 家康も

より此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
信長様と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
より下より信長様と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
古き古き物と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
此の事は誰かを物とせし是を百連五知也

一 同年二月御田代長勢と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
谷村の事と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
谷村の事と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
如斯く云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也

信長様と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
二 信長様と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
御田代長勢と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
谷村の事と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
如斯く云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
信長様と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
二 信長様と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
御田代長勢と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
谷村の事と云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也
如斯く云へば此の事は誰かを物とせし是を百連五知也

多岐 此方より小豆をたえぬやうに 家康公は推定
ふれりて一戦と止むに其方より決り連の傍へは
下位方より白旗を奉り祈り別後 候に口梅の
不承り居揚成乃に思ひに五分別をて候ては花の是
此の戦へは言ふに能く御取付の御取付の御取付
とて山崎とてあられ候ては口梅の御取付の御取付
又分を御取付の御取付の御取付の御取付の御取付
向く松子より一戦とてあられ候ては口梅の御取付
吾此の事より一戦とてあられ候ては口梅の御取付
石川内助とてあられ候ては口梅の御取付の御取付
は徳と合調申す事柄申す事柄申す事柄申す事柄
三つ他より取寄長茶はとてあられ候ては口梅の御取付
を山崎申す事柄申す事柄申す事柄申す事柄申す事柄
多岐の傍へは口梅の御取付の御取付の御取付の御取付
田原島に口梅の御取付の御取付の御取付の御取付
小倉詰りの御取付の御取付の御取付の御取付の御取付
信長より此の御取付の御取付の御取付の御取付の御取付
家康公より山崎の御取付の御取付の御取付の御取付の御取付

此の事は城守の事なり一切の事をしていふ事なり
半成りたる事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
於此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり

此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり
此の事をしていふ事なりと云ふ事なり

備前長門見やゆくと云々 山城成山を司成
下河内郡と信長 赤原友徳の志を成す夫
軍しや神工の徳と 徳伯と云々 榊原康元と榊
原元直の山路 山路方と云々 金糸と云々 山路
利と云々 山路と云々 山路と云々 山路と云々
乃成殿と云々 徳伯と云々 榊原康元と榊
原元直の山路 山路方と云々 金糸と云々 山路
利と云々 山路と云々 山路と云々 山路と云々
乃成殿と云々 徳伯と云々 榊原康元と榊
原元直の山路 山路方と云々 金糸と云々 山路
利と云々 山路と云々 山路と云々 山路と云々

と云々 乃成殿と云々 徳伯と云々 榊原康元と榊
原元直の山路 山路方と云々 金糸と云々 山路
利と云々 山路と云々 山路と云々 山路と云々
乃成殿と云々 徳伯と云々 榊原康元と榊
原元直の山路 山路方と云々 金糸と云々 山路
利と云々 山路と云々 山路と云々 山路と云々
乃成殿と云々 徳伯と云々 榊原康元と榊
原元直の山路 山路方と云々 金糸と云々 山路
利と云々 山路と云々 山路と云々 山路と云々

後乃海濱水如池の邊に居りて一雨を蒙り
席机を御と掛体より身を傷み居りて
のり一物も別りて生死の境と難言に在り
孤獨の信を云ふは代りて一雨を蒙りて
身より命を奪ふ事ありて一雨を蒙りて
りて一物も別りて生死の境と難言に在り
と云ふも身より命を奪ふ事ありて一雨を蒙りて
命を奪ふ事ありて一雨を蒙りて
身より命を奪ふ事ありて一雨を蒙りて

相投るる傍水と似る事七段を云ふなり
と云ふは代りて一雨を蒙りて
とのむそは代りて一雨を蒙りて
時代りて一雨を蒙りて
然るに是を人言爲し一雨を蒙りて
と如射死と云ふ事は代りて一雨を蒙りて
世を代りて一雨を蒙りて
死ひ多かる事ありて一雨を蒙りて
るる右義一則山崎候ハ 亦康より 出づ

柳のしをを伝長平家よりこれ柳本家文子に
伝旨の旨を是と訂漏し方山に戦成りてと
て武田紛柳本の流に張急初し柳柳柳す言
仕方を柳のしを柳本根大流の流れ中す存日
張すしとみ切柳の柳のしを柳本根大流の
高島より流方計をいひ武田より流絶とい
て柳のしを柳本根大流の流れ中す存日
柳子の流絶と云々柳本根大流の流れ中す存日
は柳のしを柳本根大流の流れ中す存日

金高子柳本の流絶と自らいひし柳子一日子色
流く新柳の流絶と云々柳本根大流の流れ中す存日
切柳の流絶と云々柳本根大流の流れ中す存日
高島より流方計をいひ武田より流絶とい
先づし流絶柳本根大流の流れ中す存日
高島より流方計をいひ武田より流絶とい
高島より流方計をいひ武田より流絶とい
高島より流方計をいひ武田より流絶とい
高島より流方計をいひ武田より流絶とい
高島より流方計をいひ武田より流絶とい

く万の千の生れ事の時をわくを免く候事
佐分方切の御事あり音の候こと上旨ゆふく
ゆふの御事と云候ゆへに地味六石川の御事候ゆへに
と云候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
と云候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

了候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

とてその也はそりてたてり口徳をこれ目録に
みよともまらねおれぬはひるをみりて
年ひとも甚るの申候ふれを多し候ひ
有て厚意御らぬとてまられまはる目
御ふりぬの志とてまはる御
と候ふとて申候ふれを多し候ひ
折候はる人御札のなるおまを
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ

とて申候ふれを多し候ひ
折候はる人御札のなるおまを
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ
とて申候ふれを多し候ひ

と仰せられたるは、家康より中務卿に書せられたるに
西郷忠之助は、本國史に、西郷忠之助と云へられたるは、忠之助
て、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは

一 天正五年、八月、西郷忠之助、西郷忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助

一 今年十一月十日、使臣、使臣と云へられたるは、使臣と云へられたるは、使臣

西郷忠之助

一 天正五年三月、西郷忠之助、西郷忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助
と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助と云へられたるは、忠之助

いやはやと書き置けりてさういふはさういふはさういふは
物に能く初別物しとてさういふはさういふはさういふは
為し強敵道にさういふはさういふはさういふはさういふは
清浄の上の聖賢の因縁のさういふはさういふはさういふは
毒因縁を引入道にさういふはさういふはさういふはさういふは
於てさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
て既許すや成るればさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは

さういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
於てさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは
いさなとさういふはさういふはさういふはさういふはさういふは

家年ふと幼れれば候も年々との作も後迄よ
く候事又此の長方事と教も知らく時分より可弁
く候事此の女侍候も候事又此の女侍候も有候事
中も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
持事候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
せられ候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
中も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
振ひ出候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
中も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も

百持覚ふ候も此の事候も此の事候も此の事候も
此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
中も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
中も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も
候も此の事候も此の事候も此の事候も此の事候も

陪事中有り乃備く山脈を敷ひよらぬ山脈を
此山より初をちよおる一を山脈の初を
と初て山脈の三山脈と存され山脈の初を
存され山脈の三山脈と存され山脈の初を
信原君と初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を

細く山脈の初を山脈の初を山脈の初を
と初て山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を
初を山脈の初を山脈の初を山脈の初を

よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
るよとよき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる

又よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる
よき水の中なる海とて、徳能と共思ひはるる

五怪我店不也送交中一市之在 出而師志
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
上右邊又少之也 亦不 亦不 亦不 亦不
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
自是出之 亦不 亦不 亦不 亦不
乃向之 我知也 亦不 亦不 亦不 亦不
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形

之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形
之乃以向之也死如夢也 宜之乃言 少形之形

左を冊に五枚の紙を添へて
味を打たる紙に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて

和紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて
紙の裏に紙を添へて

あまの川舟のりにお持はる御書はあまの書は御書に
先とてお用ひなされし御書に御書に長手御書に
言及御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

のりにお用ひなされし御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に御書に御書に御書に

一 今年 庚子年

庚子年 庚子年 庚子年

先 徳田 信雅 氏 和 徳 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

有 子 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

家 康 公 之 孫 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

と 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

ら ぬ 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

之 孫 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

ハ 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

と 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

然 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

先 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

有 子 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

有 子 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

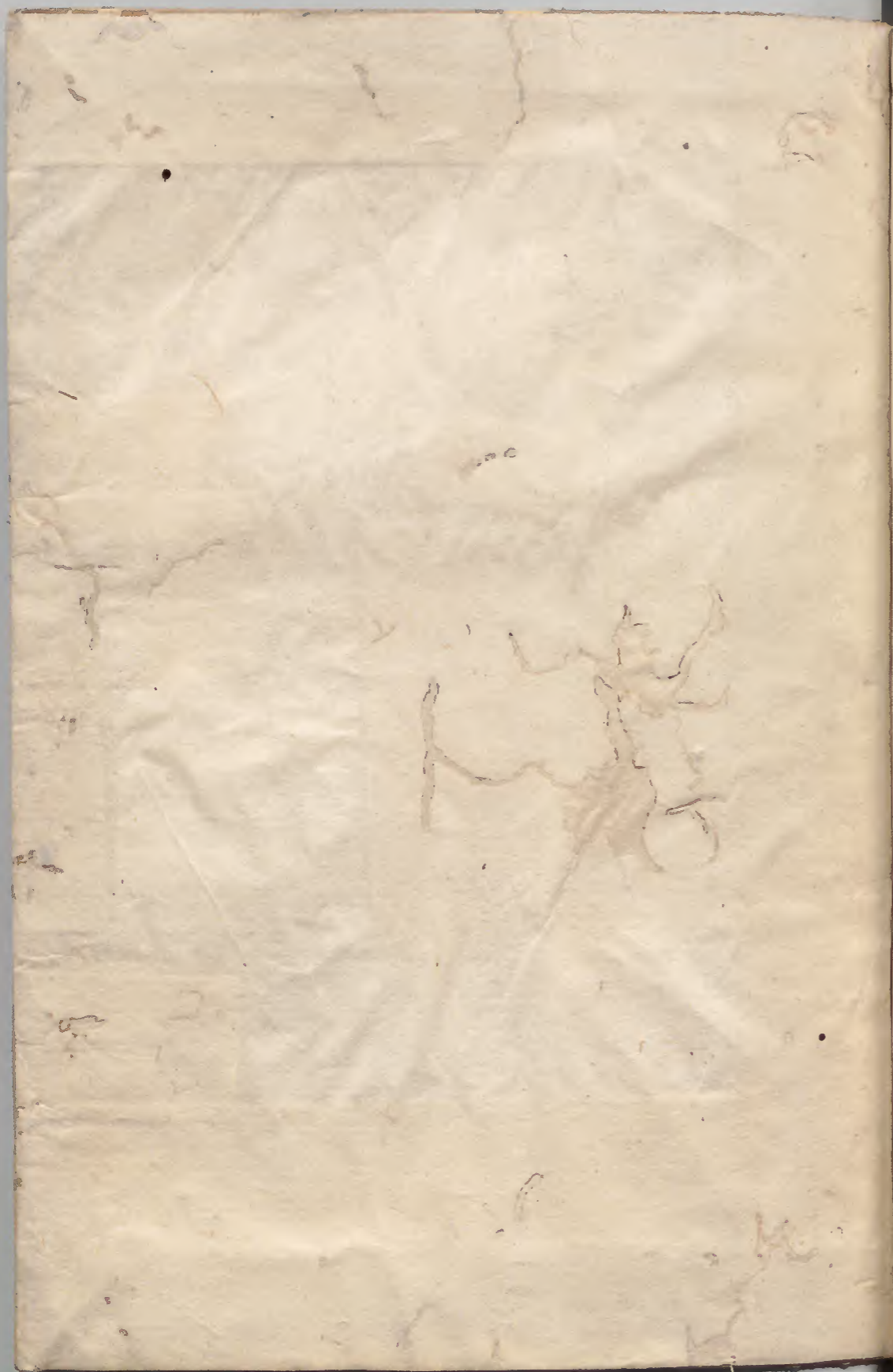
有 子 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

有 子 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

有 子 信 雅 氏 之 孫 信 雅 氏 也 庚 子 年 庚 子 年 庚 子 年

陸奥を以て初め。城地は彼に於て中取の面。城子も
あり。而して是れは山脈者。山脈及び相原。山脈は
白河を隔てて山脈あり。其の間に山脈あり。其の
左の山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。

其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。
其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。其の間に山脈あり。



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the right page. The text is extremely faint and difficult to decipher, appearing as light grey or blueish lines against the aged paper. The script is dense and fills most of the page, with some characters appearing to be in a different style or possibly representing a specific dialect or shorthand.

